

# 漆器製品のイメージに関する研究

A Study of Image in Laquer Ware.

藤 浦 鋭 夫

## 1 はじめに

製品や造形に関する知覚の測定については、他のいろいろな測定法のように、いつも明確な方法が用意されているとは限らない。それはいつも全体的印象であって、それぞれの感覚器官を通じて得られた、外界の刺激の総合されたものである。然しそれは単に、ある事象に関する個々の知覚を寄せ集めたというだけのものではなく、直接知覚されたもの、第二次感覚、あるいはそれらのフィードバックされたものから、複雑な総合されたイメージを形成する。視覚の中にも触覚から得られた皮膚感覚や温度感覚がプラスされるし、実験的にも運動感覚には、視覚や聴覚が参加していることが実証されている。

このように総合された感覚の全体的印象、フィーリングなど、質的要素を含んだ感覚の、心理的效果を量的に把握するため、近年有効とされているSD法<sup>\*註1</sup>により、また因子分析によって潜在する漆器製品のイメージの分析を試みた。漆塗りの表面には、他の塗料に見られない特性があると指適されている。その特性は時には、「漆黒」という言葉で代表されたり、「烏の濡れ羽色」と表現され、水に濡れた烏の羽毛のような、しっとりとした漆の黒色をあらわす言葉として使われている。それらの言葉の表現の原因と考えられるものに、漆と他の塗膜面や合成樹脂面とを比較した場合の、わずかな地肌の相異なるによるイメージの違い、手作業によるための形の歪、褐色透明な漆の塗膜層の厚さによる色の違い、その他が考えられる。しかしそれらはいずれも視覚的メカニズムによることは間違いないが、皆憶測にすぎず、明確な科学的検討はほとんどなされていない。

## 2 目 的

先ず産地の異なる既製の漆器製品<sup>\*註2</sup> 7品目を用意した。これらは産地の特色をよく現わしていて、生活に結びついた製品であり、形・仕上げの程度・図柄など似かよった椀・箱・盆などである。それらを言語心理学的評価によって、刺激感覚を尺度上に定量化し、その製品のイメージ、潜在する因子を推定し、年齢別視覚特性を明らかにすることを目的とした。

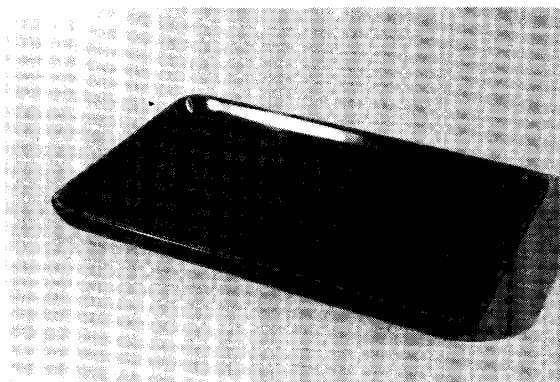
## 3 実験計画・実施

ここで実施したSD法の形容詞及び修飾語対は、過去の実験例や、先に行った予備実験の中から選択し、別表(表-1)のように反対語を両極におき、その間を5段階間隔とした。また形容語はできるだけ一般的な言葉を選び、専門的・抽象的用語を避けた。被験者は形容詞或は修飾語の5段階のうち、適当と思う所を一ヶ所選びマークするが、その被験者群は専門家だけになったり、男子だけや年齢の片寄りなどを避けるよう配慮した。そのデータの処理についてはSD法の手順に従い、各刺激(漆器)に対する全被験者75人の平均値(表-3)及びその刺激の与える印象を示すプロフィール(表-4)を求めた。

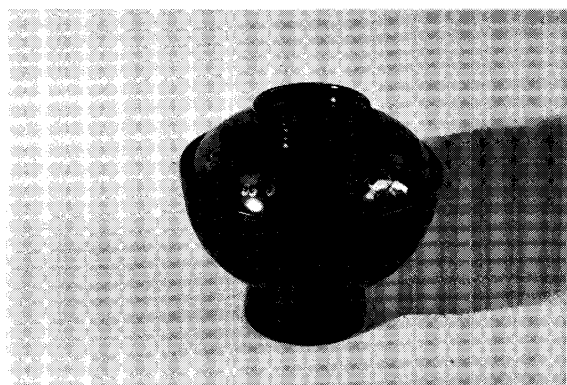
今回の実験では、写真No.1からNo.7までの7資料の漆器製品を使用した。山中産のものは資料No.3及びNo.7、金沢で生産されたものはNo.2、No.4及びNo.6、輪島で生産されたものは資料No.1及びNo.5である。被験者はこれらの資料を1つ1つ手に持ってその大きさ・重さを感じ、地肌の感触を味わい、形・図柄を見て、表-1のそれぞれの項目の尺度上の該当する所を選んだ。一般に刺激となる資料数 $m$ 、その刺激について $n$ 個の尺度を用い、 $l$ 人の被験者に尋ねたとすると、 $m \times n \times l$ 個のデータが得られ、 $m \times n$ 個



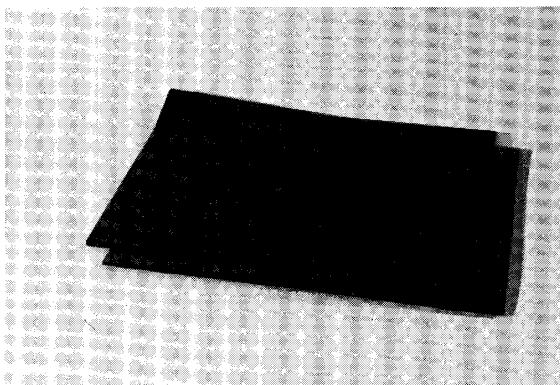
No. 1 沈金松吸物椀 輪島



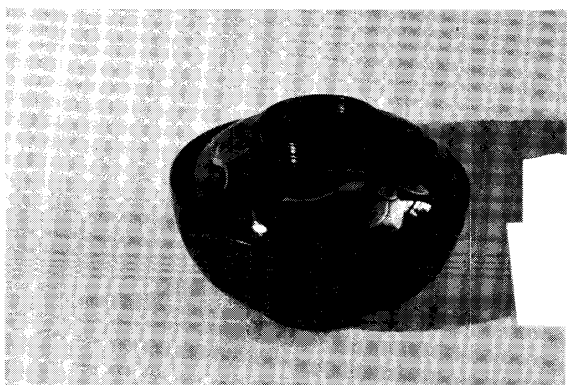
No. 5 網代沈金名刺盆 輪島



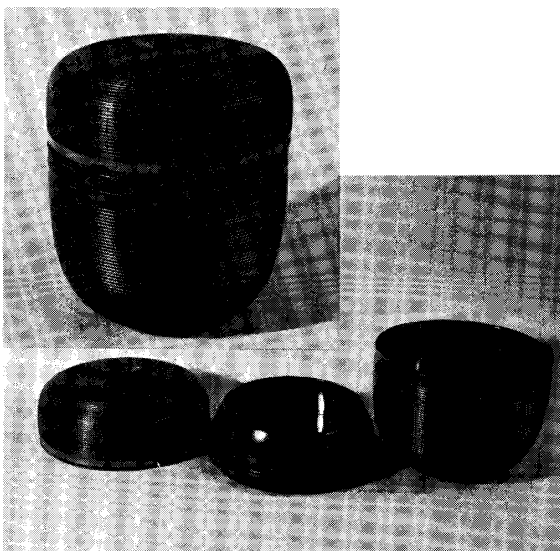
No. 2 菊唐草蒔絵吸物椀 金沢



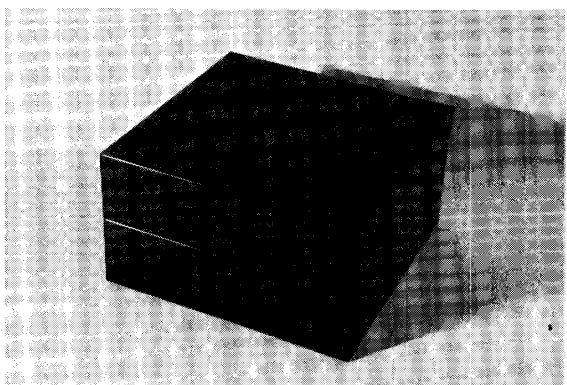
No. 6 色紙違い銘々皿 金沢



No. 3 溜塗り蘭蒔絵吸物椀 山中



No. 7 けやき信玄弁当 山中



No. 4 折鶴蒔絵小箱 金沢

年 代 別	20才代	39人	職 業 別	学 生	31人
	30才~40才代	15人		主 婦	20人
	50才以上	21人		その他	24人

表-2 被験者 75人

の平均値を得ることができる。その平均値を図示すると表-4のようなプロフィールが出来る。しかし、1個の刺激に対して18個の尺度で表わされると、それはかなりの数となり、刺激の性質を適確につかむことが出来ない。また尺度間の或るものにはかなりの関連があることは認められるが、それぞれ独立して変化するので、その関連は確定的なものではなく、その刺激(資料)の特性を概括的に正しく把握することが出来ない。それぞれの関連を裏づけるためSD法によって得られた数値をもとに尺度項目間の相関係数を求め、更にそれらの背後に存在する共

通の因子を探った。その相関の導出には次式であらわすパーソン(Pearson)の相関係数(r)により、HITACH BMDの主因子法により処理を行った。

$$r = \frac{n\sum xy - \sum x\sum y}{\sqrt{n\sum x^2 - (\sum x)^2} \sqrt{n\sum y^2 - (\sum y)^2}}$$

変数をそれぞれx, yとし、データの数をnとした時の相関係数rの計算式である。一般に相関係数の値は、その絶対値が大きいほど関連の強さを示すことになる。

#### 4 年齢別、資料別尺度評価

全資料、年齢別尺度評価の平均値を表-3に

示す。これによれば、全資料に対する50歳代の顕著な評価は、その製品に、上品で洗練された新しさを感じ、またある程度の高価となることも肯定している。また20歳では古くて暗いというイメージを持ち、ぜいたくとする傾向が強く、「しぶい」「はなやかな」ではその意識のばらつきが多かった。

総ての年代では、全製品に「温かさ」を感じているものの、湿った、しっとりとしたという表面の風あいについては、共に偏ったものがなかった。資料別では、輪島の吸物椀を上品さと強く結びつけて意識し、また金沢産の小箱と銘々皿に、簡潔さと引き締まった感じを持ち、輪島沈金椀と山中蘭蒔絵椀

資料 No.

非常に	やや	何れでもない	やや	非常に
-----	----	--------	----	-----

男  
女  
年齢  
職業

1 新しい		古い
2 明るい		暗い
3 やわらかい		硬い
4 上品な		下品な
5 湿った		乾いた
6 つやのある		つやのない
7 ほってりした		しまった
8 しぶい		はなやかな
9 手触りのよい		手触りの悪い
10 単純な		複雑な
11 安っぽい		高そうな
12 ぜいたくな		必需の
13 静かな		うるさい
14 やほったい		洗練された
15 あったかい		冷い
16 なめらかな		凸凹の
17 あっさり		こってり
18 親しみやすい		親しみ難い

表-1 漆器製品のイメージ調査表

には、艶があって手触りがよいとするイメージを伺うことができる。

### 5 漆器製品の 視覚構造因子

表-7及び8はSD法の尺度評価によって得られた、相関係数及び因子負荷量行列表である。

50歳代の第一因子の中から、高い相関を示す項目を拾って見ると、上品な、つやのある、静かな、洗練されたなどが上げられる。これは、鑑賞的意味を現わす言葉であって、手の温もりや手触りのよさに代表される生活道具であるという意識は少ない。第二因子では、古い、高そうな、ぼってりしたなど、生活に結びついて入手を予想した意識として考えられる。第三因子では、あったかい、やわらかいなど肌合的風合い因子があらわれている。以上それらを鑑賞的因子、生活因子、肌合い因子として区別しておく。一方20歳代の第一因子は、上品な、単純な、あっさり、新しい、つやのある、冷たい、洗練されたなどに高

No	形容尺度	20才代		30才～40才代		50才代以上	
		平均値	偏差値	平均値	偏差値	平均値	偏差値
1	新しい	3.175	0.604	2.770	0.417	2.584	0.509
2	明るい	3.131	0.362	2.648	0.328	2.639	0.438
3	やわらかい	3.178	0.457	2.847	0.505	2.788	0.549
4	上品な	2.304	0.297	2.314	0.363	1.882	0.276
5	湿った	2.809	0.249	2.915	0.289	3.005	0.337
6	つやのある	2.749	0.387	2.695	0.368	2.399	0.371
7	ぼってりした	3.079	0.837	3.074	0.634	3.122	0.551
8	しぶい	2.529	0.837	2.818	0.202	2.809	0.370
9	手触りのよい	2.151	0.307	2.134	0.329	2.027	0.317
10	単純な	2.528	0.552	2.408	0.333	2.555	0.350
11	安っぽい	3.242	0.199	3.114	0.144	3.489	0.289
12	ぜいたくな	2.604	0.124	2.789	0.333	2.864	0.352
13	静かな	2.399	0.415	2.305	0.379	2.158	0.238
14	やぼったい	3.075	0.414	3.144	0.407	3.564	0.275
15	あったかい	2.749	0.683	2.771	0.567	2.577	0.426
16	なめらかな	2.428	0.601	2.209	0.547	2.067	0.353
17	あっさり	2.492	0.581	2.372	0.468	2.182	0.328
18	親しみやすい	2.719	0.245	2.541	0.282	2.252	0.476

表-3 イメージ得点の平均値と偏差値

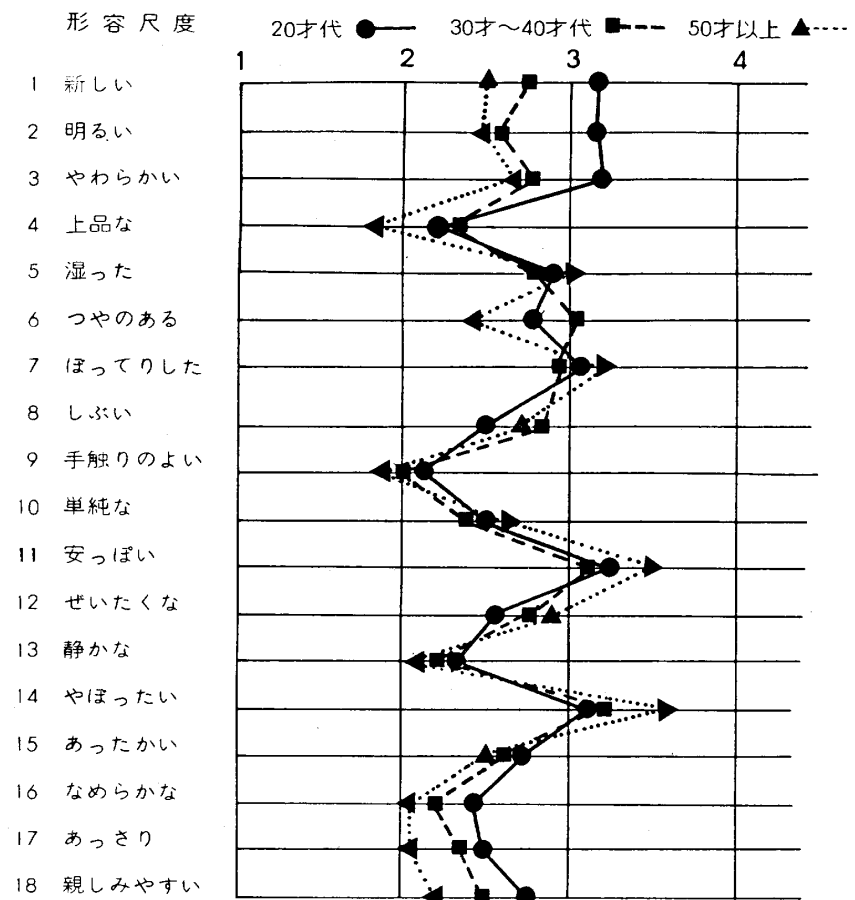


表-4 漆器製品のイメージプロフィール(年代別)

尺度評価得点							
試料 NO.	1	2	3	4	5	6	7
形容語	沈金松まわり箱	菊唐草時絵箱	溜塗らん時絵箱	折鶴時絵小箱	網代沈金名刺盆	色紙違い銘々皿	樽髹漆信玄弁当
1 新しい ——— 古い	2.7748	3.1937	2.9716	2.4392	3.4924	2.2808	3.0272
2 明るい ——— 暗い	2.5194	3.3472	2.6920	2.8796	3.3352	2.6536	2.8536
3 やわらかい ——— 硬い	2.7476	3.0660	2.2400	3.7720	3.0400	3.2240	2.9200
4 上品な ——— 下品な	1.9476	2.1716	2.2116	2.0120	2.2380	2.0672	2.6920
5 湿った ——— 乾いた	3.0420	2.6660	2.6000	3.0920	2.6692	3.1068	3.0256
6 つやのある ——— つやのない	2.2516	2.7968	2.3620	2.5080	2.8116	2.4412	3.3165
7 ほつてりした ——— しまった	3.1028	2.6788	2.4784	3.9848	3.1192	4.0168	2.2552
8 しぶい ——— はなやかな	3.1204	2.4120	2.6768	2.4688	2.5172	2.9228	2.5193
9 手触りのよい ——— 手触りの悪い	1.6904	2.1304	1.9980	2.1076	2.1736	2.0800	2.6124
10 単純な ——— 複雑な	2.6928	2.7308	2.4660	2.2168	2.2806	2.0836	3.2508
11 安っぽい ——— 高そうな	3.3880	3.6128	3.2024	3.3076	3.1320	3.1512	3.2104
12 ぜいたくな ——— 必需的	2.6824	2.5192	2.9460	2.5748	2.8524	2.7348	2.6144
13 静かな ——— うるさい	2.3092	2.0920	2.4028	1.9892	2.2172	2.2528	2.9316
14 やほつたい ——— 洗練された	3.4432	3.0652	3.0520	3.5568	2.9336	3.6280	2.9048
15 ぶつたかい ——— 冷い	2.9340	2.6512	1.9996	3.4776	2.8548	3.0904	1.9336
16 なめらかな ——— 凹凸の	1.8384	2.1324	1.9328	2.2672	2.3340	2.1092	3.3716
17 あっさり ——— こつてり	2.4680	2.4792	2.3084	1.8000	2.2296	1.9480	3.2536
18 親しみやすい ——— 親しみ難い	2.3876	2.7324	2.1580	2.8112	2.7608	2.4248	2.5444

表-5 全資料に対する尺度評価の平均値

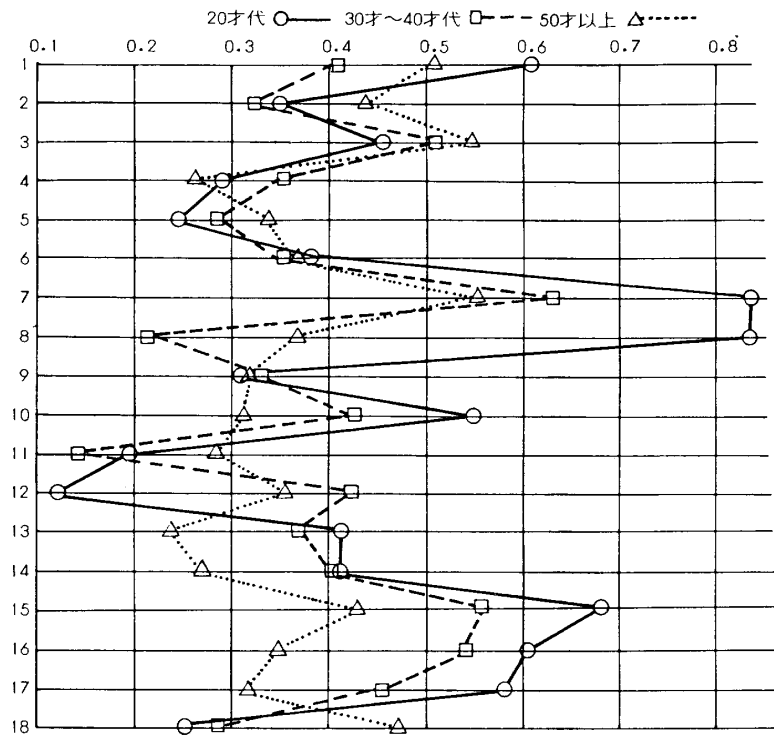


表-6 イメージ得点の偏差量

い相関があり、感性的評価因子とする。また第二因子では、ぜいたく、親しみ難い、手触りが悪い、など反対の相関が強いののでこれを疎遠因子と名づける。第三因子では、湿った、はなやかななどに高く、これを情緒的因子とする。以上50歳代20歳代をまとめて見ると、かなり意識の相異が見られる。

表9～表12は、漆器7資料の因子負荷量及びそのグラフである。20歳代と30歳～40歳代の2組の資料である。双方とも第一因子に、輪島の沈金椀、金沢の小箱、輪島の名刺盆、金沢の銘々皿が高い相関となって表われた。これらは最高の塗りである美術品の評価と、それに対する日常雑器的評価の軸を持つ因子と考えられる。またもう一つの第二因子では、第一因子とは全く逆の、山中産溜塗り椀と信玄弁当に高い相関が見られる。若年と中年では若干の相異が見られるが、民芸品の気楽さとも言える親しみやすさと、それに対する道具的

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	新しい	1.00																	
2	明るい	-.69	1.00																
3	やわらかい	-.41	.26	1.00															
4	上品な	.45	.24	-.22	1.00														
5	湿った	-.77	-.57	.55	-.14	1.00													
6	つやのある	.47	.51	.13	.89	-.06	1.00												
7	ぼってりした	-.70	-.18	.71	-.68	.55	-.49	1.00											
8	しぶい	-.45	-.78	-.31	-.47	.42	-.63	.24	1.00										
9	手触りのよい	.08	.42	.61	.52	.39	.80	.05	-.41	1.00									
10	単純な	.39	.01	-.34	.70	-.02	.64	-.81	-.14	.33	1.00								
11	安っぽい	.12	.28	.08	-.25	-.16	-.04	-.18	-.15	-.00	.31	1.00							
12	ぜいたくな	.22	-.19	-.63	-.02	-.46	-.33	-.12	.25	-.62	-.35	-.67	1.00						
13	静かな	.18	-.28	-.46	.83	.12	.59	-.65	.06	.27	.75	-.34	.10	1.00					
14	やぼったい	-.90	-.56	.49	-.75	.70	-.67	.86	.54	-.15	-.58	.00	-.22	-.49	1.00				
15	あったかい	-.39	.12	.84	-.58	.55	-.20	.81	.10	.38	-.47	.16	-.49	-.62	.65	1.00			
16	なめらかな	.20	.18	.16	.90	.23	.92	-.38	-.45	.78	.63	-.24	-.30	.73	-.48	-.20	1.00		
17	あっさり	.47	.03	-.44	.80	-.07	.70	-.84	-.10	.36	.96	.11	-.17	.86	-.67	-.55	.69	1.00	
18	親しみやすい	.20	.73	.79	.01	.07	.42	.29	-.62	.68	-.08	.27	-.59	-.40	-.05	.65	.27	-.15	1.00

表-7 評価尺度の相関行列

形容語	因子負荷量	20才代			30~40才代			50才代以上		
		F1	F2	F3	F1	F2	F3	F1	F2	F3
1	新しい - 古い	.820	.055	-.519	.257	-.384	-.704	-.050	-.813	.418
2	明るい - 暗い	.531	-.381	-.715	-.140	-.704	-.612	.432	-.581	.584
3	やわらかい - 硬い	-.656	-.692	.212	-.637	-.581	.149	.667	-.133	.634
4	上品な - 下品な	.937	-.095	.289	.951	-.017	-.115	.848	.145	.010
5	湿った - 乾いた	-.252	-.198	.858	-.336	.576	.703	.444	.617	.144
6	つやのある - つやのない	.791	-.578	.114	.628	-.678	.237	.854	-.234	-.229
7	ぼってりした - しまった	-.905	-.398	.083	-.944	-.068	.149	-.083	.842	.467
8	しぶい - はならかな	-.346	.456	.640	-.250	.733	-.108	-.769	.500	-.285
9	手触りのよい - 手触りの悪い	.478	-.773	.349	.867	-.399	-.132	.752	.296	-.466
10	単純な - 複雑な	.841	.067	.476	.390	-.349	.782	-.769	-.587	-.091
11	安っぽい - 高そうな	-.191	.200	-.016	-.416	-.679	.405	-.440	-.788	.225
12	ぜいたくな - 必需の	.091	.884	-.079	.529	.800	-.086	-.052	.645	.118
13	静かな - うるさい	.692	.371	.576	.879	.354	.425	.984	.117	-.109
14	やぼったい - 洗練された	-.863	-.014	.425	-.800	-.189	.425	-.905	.175	.247
15	あったかい - 冷い	-.856	-.325	.023	-.912	-.144	.001	.150	.476	.843
16	なめらかな - 凸凹の	.658	-.516	.492	.723	-.486	.331	.792	-.030	-.315
17	あっさり - こってり	.935	.221	.264	.900	.085	.185	.434	-.473	-.632
18	親しみやすい - 親しみ難い	-.181	-.807	-.268	-.886	.178	-.312	.708	-.326	.569
寄与率 %		45.4	22.3	18.5	47.7	23.1	15.3	40.9	25.0	17.7

表-8 各年代別因子負荷量

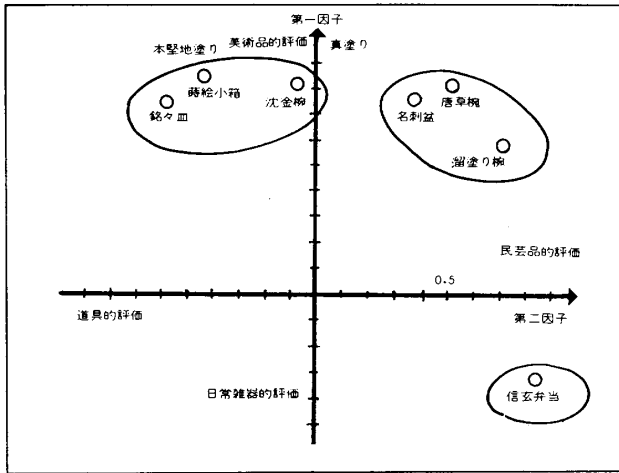


図-1 漆器7資料の空間位置づけ (20才代)

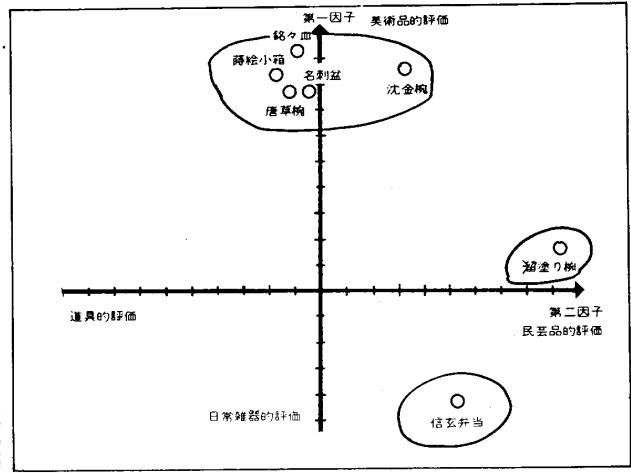


図-2 漆器7資料の空間位置づけ (30才~40才代)

	資 料	第一因子 F <sub>1</sub>	第二因子 F <sub>2</sub>
1	沈金松まり柳	0.81984	-0.07682
2	菊唐草蒔絵椀	0.80286	0.51390
3	溜塗らん蒔絵椀	0.59140	0.70370
4	折鶴蒔絵小箱	0.84946	-0.41154
5	網代沈金名刺盆	0.76556	0.38618
6	色紙違い銘々皿	0.74855	-0.58795
7	櫨摺漆信玄弁当	-0.32597	0.83367
	寄 与 率	52.0 %	30.3 %

表-9 漆器7資料の因子負荷量 (20才代)

	資 料	第一因子 F <sub>1</sub>	第二因子 F <sub>2</sub>
1	沈金松まり柳	0.86118	0.30118
2	菊唐草蒔絵椀	0.77006	-0.12816
3	溜塗らん蒔絵椀	0.17112	0.92668
4	折鶴蒔絵小箱	0.83674	-0.18275
5	網代沈金名刺盆	0.78804	-0.03771
6	色違い銘々皿	0.93543	0.09594
7	櫨摺漆信玄弁当	-0.41818	0.54130
	寄 与 率	53.3 %	18.9 %

表-11 漆器7資料の因子負荷量 (30才~40才)

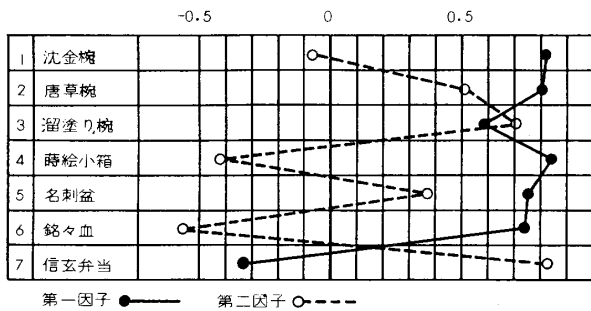


表-10 漆器7資料の因子負荷量グラフ (20才代)

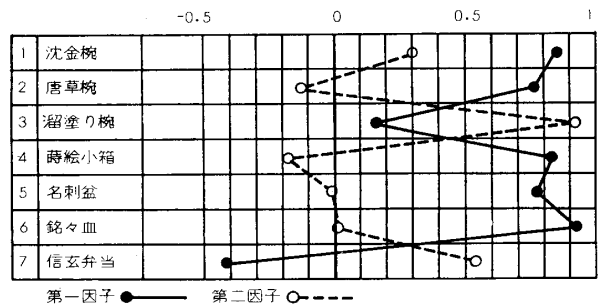


表-12 漆器7資料の因子負荷量グラフ (30才~40才)

評価を軸とする因子が考えられる。つまり、気品格調の高さを求める美術品的評価因子と、表面の地肌に関わる親しみ易さの因子である。

図-1, 図-2は第一因子を縦軸にとり、第二因子を横軸にとった時の、それぞれの値を平面空間内に位置つけたものである。ある部分に強くあらわれたものを枠内に集め、性格をはっきりさせた。

	50才	20才
第一因子	上品な、つやのある。 静かな 洗練された 鑑賞的因子	上品な 単純な あっさり 新しい。つやのある。 冷い、洗練された。 感覚的評価因子
第二因子	古い 高い ぼってりした 生活因子	ぜいたく、親しみ難い 手触りが悪い。 疎遠因子
第三因子	あたたかい やわらかい 肌合い因子	湿った はなやかな 情緒的因子

表-13

## 6 ま と め

今回の漆器製品のイメージに関する研究は、SD法によって年齢別産地別のイメージ特性の把握と、数値化をはかり、次に主因子法による因子分析を行った。一般に因子分析は、さまざまな事象間の様式パターンを分析し、それらの事象の背後に潜む共通の因子をさぐる統計的手法であって、与えられた変数間の相関を、できるだけ少ない数の因子で説明しようとするものである。今回の7資料の中に潜在する「何か」についての傾向は、20歳代と30~40歳の間でもかなりの相異が見られた。更に年齢差が開くに従ってその相異は顕著となり、高年齢層では先ず鑑賞的立場をとると同時に、その製品を日常生活に取り入れようとしている。これに対し、若い層では感覚的に好ましい評価をするかたわら、疎遠感を持ち、漆器製品を否定しようとする傾向が見られた。

- 道路景観 国際交通安全学会
- 漆塗膜のイメージに関する研究 阿佐見 徹他2名
- 機器に見る色彩イメージの数量化解析 山本敏子他2名
- 因子分析法 安本美典他1名

## 註-1 SD法

セマンティック・デファレンシャル、(Semantic Differential) とは、C.E. Osgood が開発した言語の感情的な意味を研究する方法である。色彩や配色、手ざわりなどの感覚的な心理効果や広告のイメージ調査などに広く用いられている。これらのフィーリングとか、印象とか、日常語における感覚など、質的要素をふくんだ心理効果を量的に把握したい場合、有効な方法と言える。

## 註-2 漆器製品

石川県には古い歴史をもつ漆器産地が3ヶ所あり、それぞれすぐれた特徴を持っている。山中では、けやき・ぶな・プラスチックを素材とした丸物で、溜め塗りや摺り漆仕上げの上に蒔絵をつけたものが多い。主として生活に密着した日常用品を生産している。金沢では本堅地塗りの角物や茶道具が多く、本格的な蒔絵を施した道具類が主として作られている。輪島では根来衆によって伝えられたという漆器の下地や塗膜の堅牢さを誇り、あて材を素材とした塗り物の上に、蒔絵や沈金加飾をほどこしたものが特徴である。

ここで使用された製品の特徴や市販価格は以下のようである。

- No.1 「松沈金吸物椀」輪島産 20,000円  
黒漆塗り立て、蓋裏朱色、蓋表裏に松を抽象化して沈金加飾をほどこしてある。
- No.2 「菊唐草蒔絵吸物椀」金沢産 20,000円  
黒漆塗り、布着せ本堅地、蓋表裏に菊を唐草風に模様化し高蒔絵。
- No.3 「けやき溜塗り蘭蒔絵吸物椀」山中産 8,000円  
外部けやき溜塗り、内部黒仕上げ蘭高蒔絵
- No.4 「折鶴蒔絵小箱」金沢産 30,000円  
黒漆仕上げ、折鶴線高蒔絵、宝飾品、小物入れ  
大きさ 114×114×62mm
- No.5 「沈金名刺盆」輪島産 8,000円  
あて材、堅地黒仕上げ、縁沈金網代模様  
大きさ 240×160mm
- No.6 「色紙違い銘々皿」金沢産 5,000円  
いちよう材、木堅地、黒朱塗り分け、
- No.7 「けやき信玄弁当」山中産 9,000円  
けやき材、摺り漆仕上げ 160×105mmφ

## 参考文献

- ミニコンによる色彩設計システム 水野 潤他3名
- 心理学的測定法 田中良久
- 多変量解析の基礎 竹内 啓, 柳井晴夫
- 多変量解析入門 河口至商

(昭和58年12月20日受理)